

令和4年度 第1回堺市自殺対策連絡懇話会 議事録

- 1) 日時 令和4年10月6日(木) 14時～15時30分
- 2) 場所 堺市北区役所1階 大会議室
- 3) 出席 秋元さつき委員、飯田陽子委員、小林郁朗委員、佐藤まどか委員、
志村雅史委員、中村芳昭委員、梨谷竜也委員、平野孝典委員、
米花紫乃委員、山田治彦委員
堺市健康福祉局健康部
- 4) 事務局 精神保健課(前原、肥塚、中島、林)
こころの健康センター(中西、狩谷、橋本)
- 5) 会議次第
 - 1 開会
 - 2 委員及び事務局職員紹介
 - 3 案件・報告
 - (1) 座長等の選出について 2
 - (2) 令和3年度自殺対策事業実績報告について 2
 - (3) 堺市自殺対策推進計画(第3次)について 3
 - (4) ゲートキーパー研修の拡充について 4
 - (5) その他 6

6) 議事等の内容

(1) 座長等の選出について

委員の互選により、梨谷委員が座長に選出された。

その後、座長の指名により、平野委員が職務代理に選出された。

(2) 令和3年度自殺対策事業実績報告について

事務局から、資料3-1、3-2について、精神保健課及びこころの健康センター分を中心に、概要説明があった。

【意見内容等】

〈佐藤委員〉

参考資料3によると、全国原因・動機別自殺者数で「不詳」が多くなっているが、これに対する事業はあるのか。何らかの生きづらさがずっとあった方たちかもしれない。

〈事務局〉

「不詳」に対する直接的な対策は難しいと思うが、自殺に至るには平均して4つ以上の原因が絡むと言われている。「不詳」とされたケースも様々な複数の原因によって自殺に追い込まれたのだとすれば、既存の自殺対策を総合的に推進する中で少しでも自殺という選択肢から遠ざかってもらうことができるのではないかと考えている。

〈梨谷委員〉

自殺の要因は警察が調べる。遺書や遺族からの聞き取りで特定するようだが、全く情報がなくてわからないと「不詳」になるようだ。

〈飯田委員〉

堺市原因・動機別自殺者数で、「勤務問題」が増えているが、例えば業種別の傾向等はあるか。

〈事務局〉

自殺者数のデータは細かく分類しすぎると特定性が高まるため、詳細なものは公表されていないところがある。ただし、お尋ねの件に関しては、一見急増したように見えるが、5年単位で見ると4～20人の間で増減を繰り返しており、統計的に意味のある傾向はないと考えている。

〈中村委員〉

地域ごとの分析はされているか。例えば南区は老老介護等が考えられるし、西区は新しい方が入ってきている等、堺市では地域ごとに生活の違いがある。

〈事務局〉

手元に詳細なデータがなく、確答はできない。ただし、いのち支える自殺対策推進センターから提供される地域自殺実態プロファイルでは詳細な分析がされていたように思うが、例えば区ごとに年齢や属性をクロス集計すると非常に少ない人数となり、特定性が高まるため、公表不可とされているものもある。一方で、市全体の傾向として、年代や居住形態等の傾向はある程度出せるデータとしてある。

〈米花委員〉

地域自殺対策推進センター事業の「民間団体への支援」について、具体的に教えてほしい。

〈事務局〉

未遂者支援において関係機関と連携する中で、関係機関に対応の助言等をしたものを計上している。

(3) 堺市自殺対策推進計画（第3次）について

事務局から、資料4について、No.2及び3を中心に、概要説明があった。

【意見内容等】

〈梨谷委員〉

これまで冊子であった相談機関一覧がホームページに移行していくとのことだが、例えばPDFで冊子をそのままホームページに載せるイメージか。

〈事務局〉

PDFは読み上げソフトに対応できないことがあり、随時更新の利便もあるため、通常のHTML形式となっている。「堺市 相談機関一覧」と検索してもらい、一度ご覧いただければと思う。

〈梨谷委員〉

紙ベースではできないことでネットではできると考えると、例えば、悩み事を入力するとそれに対応する機関が一覧で出てくるような仕様にはなっていないか。

〈事務局〉

当市のシステムでそのような対応できるのか不明である。現状としては、目次ページがあり、そこからカテゴリー別に見られるようにはしている。

〈梨谷委員〉

費用面もあって軽々には言えないが、最近の企業のホームページを見ているとAIチャットが対応するようなものもあり、今後更新する際に視野に入れられるのであれば良いのではないかと思う

〈平野委員〉

相談機関の認知度を上げることが一つの目標とのことだが、例えば年代別に認知度に差はあるのか。

〈事務局〉

データとしてはある程度のはあったかと思うが、詳細なデータが手元にないため、詳細の確答はできない。ただし、極端に大きな年齢差はないものと記憶している。ただ、例えば高齢世代はあまりSNSを活用していない等、年代別に情報の入手経路の違いはあり、周知ルートに関しては留意が必要と考えている。

〈平野委員〉

世代によるばらつきがあるのであれば、認知度が低いところにターゲットを絞ることも考えられる。ホームページによる情報提供となると、高齢者の方が手薄になるのではと気になった。

〈梨谷委員〉

今の情勢からしてインターネットでとなることはやむを得ないが、紙で手元にあると便利でもある。例えば病院の相談室に冊子が置いてあり、何か話している時にさっと見られる。今後はおそらく印刷して手元に置いておくことになると思うが、印刷しやすい形になっているか。

〈事務局〉

ワンクリックで全て出てくるわけではなく、カテゴリー別に開くような形になっているので、カテゴリーごとに印刷してもらう必要がある仕様となっている。

〈山田委員〉

SNSによる周知という話があったが、その先にSNSによる相談も検討しているのか。

〈事務局〉

いずれはそういう流れになるかもしれないが、具体的な検討には至っていない。相談機関一覧の中でSNSによる相談をしているところを紹介している、というのが現在の到達点である。

〈佐藤委員〉

亡くなられた方で、何らかの支援に繋がっていた割合はわからないか。

〈事務局〉

直接それを示すデータはなかったと思う。

〈佐藤委員〉

未遂者に関するものでもいいと思うが、そういったデータがあれば、繋がることの良さがわかるかもしれない。

(4) ゲートキーパー研修の拡充について

事務局から、資料5について説明があった。

【意見内容等】

〈中村委員〉

例えば小中学校やそのPTA向けに売込み等はしているのか。

〈事務局〉

自殺対策に関する庁内連絡会があり、教育関係部局も入ってもらっている。直近で具体的な話があるわけではないが、その場で調整をしている。

〈中村委員〉

関心があるPTAもあるのではないかと。子どもに対するゲートキーパーになれると思うので、いいと思う。

〈事務局〉

今後も引き続き調整していきたい。

〈梨谷委員〉

学校となると、教員とPTAは別扱いの話になると思う。

個人的なことだが、自分が住んでいるところのPTAで研修企画を担当している。学校から企画の提示はなく、担当で好きに決める形である。堺市と同じかはわからないが、連絡協議会等、各

PTAの上部組織で研修メニューを周知すれば、取り入れてもらいやすいのではないかと。

〈秋元委員〉

民生委員にも順番に受けてほしいと思っていたが、途中でやめてしまうことがある。続けて最後までできる人が少ないことも問題だと感じている。地域では高齢者へのボランティアをされている方もおり、そういったところにも働きかけてはどうか。

〈事務局〉

まさにそういうところで実施したいと考えている。ただ、直接売込みでは必ずしも反応が良くないこともあったため、既にそういう団体等と付合いのある包括支援センター等の関係機関に周知し、何かの企画をする際の選択肢に入れてもらえるようにすることで、機会を増やせるのではないかと考えている。

〈山田委員〉

学校単位だと数が多くて大変なので、教員向けの研修センターや自主的に集まるようなところがある。大阪市で言うと、私学会館等で大きな研修をしている。堺市ではどの組織になるのかわからないが、そういったところでも一つではないか。

〈事務局〉

堺市では教育センター等の組織になるかと思う。年間計画等もあると思われ、次年度以降の話になっていくとは思いますが、引き続き庁内連絡会等で調整を図っていきたい。

〈平野委員〉

大学の授業は90分で、半期15回で行うが、その内の1回にゲスト講師で赴くということも考えられるのではないかと。若年者の自殺が増えているとのことであり、大学生もターゲットになるのではないかと。また、大学のボランティアサークルでも興味のあるところは多いと思う。学生であれば90分は慣れた時間であり、抵抗なく受講してもらえるのではないかと。

〈事務局〉

市内のいくつかの大学には既に呼んでいただいている。市内の大学で機会がありそうなら、ぜひお声掛けいただきたい。厳密に言うと、大学生は堺市民ばかりではないが、地域で活動されている点では堺市に関係する人達と捉えて良いと思われる。委員各位にも念頭に置いておいてもらい、機会があればお誘いいただきたい。

〈米花委員〉

もし堺市立総合医療センターで実施してもらいたいとなれば、病院としてはどのような準備等が必要か。皆、気にはなっているが、どこまで責任を持って関わるべきかという点で少し怖さもあると思うので、「悩みの聴き方、学んでみませんか？」というのは、入りやすいキーワードだと思った。

〈事務局〉

病院となると専門職の集まりなので、市民向けのゲートキーパー研修の内容が良いのか、もう少し高度な別の形態の研修にするのか、という点がある。「まずは聴き方から」として、受付の方等も含めてこの枠内で実施することもできる。準備は特にはなく、メニューの選択や日程調整程度である。機材等は準備してもらえるとありがたい。受講後にはアンケートや報告書に協力をいただき、

完了となる。当課又はこころの健康センターに問合せをいただきたい。

〈米花委員〉

事務職や医療職等、対象者を区切った形でお願いする方法もあるということか。

〈事務局〉

この研修は「誰でも」という趣旨だが、決まったパッケージでの実施を想定している。例えば医師を対象とするのであれば、このゲートキーパー研修というよりは、現任者への研修ということになると思われるため、内容面を含めてより詳細な調整が必要になるのではないか。

〈梨谷委員〉

病院宛に研修案内を書面で送ると、可能性が高まるのではないか。病院はノルマ的に研修をしているところもあるので、もう少し積極的にいけば、例えば私の所属病院では実施することもあると思われる。

(5) その他

事務局から、参考資料4について説明があった。

【意見内容等】

〈山田委員〉

堺市内地域別の自殺者数やその傾向についての話があったが、国から提供されたデータを元に検討しているということか。

〈事務局〉

自殺の統計は大きく、人口動態によるものと、警察庁のまとめによるものがあり、考え方が違う部分があるので完全一致はしない。人口動態については、例えば「堺市」といった形で集計されたものが一般に公表されている。

〈山田委員〉

例えば区別に自殺者数の報告があるということではないのか。

〈事務局〉

区別に関しても、警察庁統計を元に厚生労働省がまとめた、堺市全体と区別の詳細データがある。ただし、カテゴリーによっては数が非常に少なく、特定性が高まるため、公表を控える前提で提供されているところもある。資料として本日提供したのは、全市の傾向を掴むためのものである。

〈山田委員〉

区単位だと細かすぎる、市単位だと地域別のことはわかりにくい。その中間になる単位、例えば警察署ごとや消防署ごと等が考えられるが、結局は難しい部分が残るということか。

〈志村委員〉

自殺者数減少の推移が鈍化傾向にあるようだが、これまでの対策で見られた成果があれば、聞かせてほしい。

〈事務局〉

何を成果とするかは非常に難しいところではあるが、平成22年以降を大きく見ると、自殺者数

は減少傾向にあり、相談できる場所を知っている人も少しずつ増えている。ゲートキーパー研修の受講者も積み重なっており、それらを含めて成果、改善点と考えている。

〈志村委員〉

現在の具体的な目標はあるのか。

〈事務局〉

現行計画上の目標は、ゲートキーパー研修受講者2,000人以上、相談機関の認知度80%以上、自殺死亡率13.7以下、となっている。

〈佐藤委員〉

国の大綱において自死遺族支援も入るようで、興味深く見ている。未遂者支援等においても家族が相談に来ることは多く、家族全体の底上げ、支援ができればと考えている。子どもたちの中には、助けたいと思って聞いて話を聴いていたが助けられないと思う方も多いため、大学生や大人に向けたゲートキーパー研修等も必要だが、小さい頃から「抱え込まない」ということをどうやって伝えていけるのか、ということが気になっている。

遺族の会で、芸能人で亡くなった方の報道について話題になった。亡くなったことは残念なことだが、悪者を作らない、迷惑な人という見方をしない等の点で一定の配慮が感じられた。悲しいということだけで終わらず、生きていたその人のことを思って家族や友人が楽しいことをしたというようなことも報道され、悲しいばかりを伝えられるよりは良かったように感じた。

〈小林委員〉

芸能人の自殺が報道されると、類似するケースが生じやすい。その際、インターネットのニュース等で各種の相談窓口の情報も流れる。そういった際、特に若い人はインターネットをよく見ているので、堺市も一緒に情報を出すことができれば良いと思う。

以上